

## タイの貧困者運動 ～居住権獲得をめざして～

外国語学部英語学科 4 年 佐久間綾子

現在、世界の人口の約半数の人々が 1 日 2 ドル以下の生活を送っている。彼らが貧困から脱却するために国際機関や、先進国、NGO などが無数の開発援助プロジェクトや貧困削減プロジェクトを行ってきた。しかし、未だに世界の貧困者の数は増え続けている。それには様々な理由が考えられるが、その一つとして今行われているプロジェクトの大部分が貧困者ではなく上からの目線でなされていることが問題ではないかと筆者は考える。つまり、問題の中心であるはずの貧困者は蚊帳の外で、先進国がひいては自国の利益になるような活動を行ったり、実態を知らない外部者がその場限りの援助を行ったりすることで真の貧困からの脱却はありえないのである。それよりも、貧困者自身が主体となって活動する People's Process の方が本当の発展を目指すことができるのではないか。

もともと筆者はなんの力も持たない人たちがわずかに集まったところで大した力にはならないと思っていた。しかし、大学で様々なことを学び「少ない人数でも強い意志を持った人々が集まれば強い力になるのかもしれない」と思うようになった。この論文では、人間居住財団 (Human Settlement Foundation :HSF) という限られた人員でタイの各地で活動を行っている団体に注目し、少人数でも貧困者と共に People's Process を進めていくことで大きな力と成り得ることを証明したい。

この論文によって People's Process を進めることこそが貧困から本当に脱却するための道であることがわかった。それには貧困者を問題の中心として活動すること、そして人々・団体同士のネットワークを大切にすることが重要である。貧困者を主体者として活動することによって彼らが自らの力で問題を解決する力を身に付けることができるし、ネットワークを広げることによって助け合いをしたり活動を広めたりすることができる。

論文では、まず、第一章ではタイの政府の側からの活動を見ることによってタイの貧困者を取り囲む環境について考える。第二章では HSF の歴史と活動に注目し、どのようにして限られた人数のなかで効果的な活動をしているのかを考察する。そして第三章に今は亡き HSF のリーダー、スーイット・ワトゥヌー氏について彼の後継者の一人であるエック氏 (Abhayuth Chantrabha) が書いた追悼文の日本語訳を掲載し、タイ社会の下層階級の人々の闘士と謳われるスーイット氏について考える。

### 【主要参考文献】

下川雅嗣(2007)「タイにおける国際居住年記念賞受賞者の活動報告」『住宅』、80、40-69。  
下川雅嗣(2008)「貧困者の歩み (People's Process) の発展：パキスタン、タイの事例から」  
幡谷・下川編著『貧困・開発・紛争 - グローバル/ローカル相互作用』、4 月刊行予定。